

銅鐸の国

伊奈銅鐸出土一〇〇年

The Land of
Bronze Bells

2024 11/30 土

2025 2/2 日

休館日
月曜日、12月29日(日)～1月3日(金)
※1月13日(祝)は開館し翌日休館

開館時間
9:00～17:00(入場は16:30まで)

観覧料

一般・大学生 800円(600円)
小・中・高生 400円(200円)

※()内は前売または20名以上の団体料金。

前売券は豊橋市美術博物館・豊橋市役所じょうほうひろば・
チケットぴあ(Pコード:687-065)・CNプレイガイド(CNC-37188)
で11月29日(金)まで販売。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを
お持ちの方と引率者は無料(ミライロIDが利用できます)。

※東三河の小中学生は「ほの国こどもパスポート」の提示により無料。

※豊橋市在住の70歳以上の方は割引料金(400円)。

主催 豊橋市美術博物館
後援 浜松市 / 豊川市 / 田原市
特別協力 文化財活用センター /
東京国立博物館 / 奈良国立博物館

弥生時代の謎の祭器『銅鐸』三〇点以上が豊橋に大集結！



豊橋市美術博物館
TOYOHASHI CITY MUSEUM of ART & HISTORY

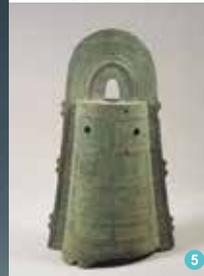
三河・遠江出土の銅鐸が一堂に集合

2000年の時空を超え、銅鐸の国がよみがえる



伊奈銅鐸の発見【豊橋郷土史友会 絵葉書】

大正13年(1924)12月27日、旧小坂井村伊奈(現・豊橋市前芝中学校内)から3点の三遠式銅鐸が出土し、地元は狂騒に沸き立ちました。当時、新聞紙上を大いに賑わせ、森本六爾や後藤守一、梅原末治ら著名な考古学者たちの来訪が相次ぐなど、日本考古学史上でもまれな関心を集めることとなりました。本展は、出土から100年の節目を迎える伊奈銅鐸の里帰りを果たすとともに、国内有数の銅鐸集中地帯として知られる三河・遠江地方(三遠地方)を「銅鐸の国」と見なし、そこから出土した銅鐸を一堂に会することで、銅鐸の果たした意義と当時の地域社会を考える機会にします。



関連イベント

1 記念講演会「東アジアの青銅器文化と『銅鐸の国』」

11月30日(土) 14:00から 会場:講義室

講師:井上洋一さん(奈良国立博物館長)

参加:無料 定員:80人

申込み:当館ホームページにて11月1日(金)から受付

2 第7回とよはしシンポジウム

「銅鐸の国と弥生時代の社会」

12月7日(土) 13:00から 会場:豊橋市公会堂

講師:難波洋三さん(京都国立博物館名誉研究員)ほか

参加:無料、当日先着順(定員600人)

3 ギャラリートーク

12月28日(土)、1月18日(土)、2月1日(土) 各14:00から

講師:担当学芸員

参加:無料(要観覧料、申込不要)

主な展示品

- 伊奈1~3号銅鐸 東京国立博物館蔵 ①
- 小島銅鐸 東京国立博物館蔵 ②
- 悪ヶ谷銅鐸 東京国立博物館蔵 ③
- 平尾(源祖)銅鐸 東京国立博物館蔵 ④
- 荒神山2号銅鐸 奈良国立博物館蔵 ⑤
- ◎ 大岩山銅鐸 滋賀県立安土城考古博物館蔵
- ◎ 朝日遺跡銅鐸 あいち朝日遺跡ミュージアム蔵
- 滝峯才史郎谷銅鐸 浜松市蔵
- 猪久保銅鐸 浜松市蔵
- 敷地3号銅鐸 静岡県埋蔵文化財センター蔵
- 千両銅鐸 個人蔵
- 広石銅鐸 個人蔵
- 法蔵寺銅鐸 法蔵寺蔵
- ◎ 人面文土器 安城市歴史博物館蔵
- 弥生土器 東海地方各地

◎: 国指定重要文化財 ●: 県指定文化財



豊橋市美術博物館
TOYOHASHI CITY MUSEUM of ART & HISTORY

〒440-0801 愛知県豊橋市今橋町3-1(豊橋公園内)

Tel: 0532-51-2882 Fax: 0532-56-2123

E-mail: bijutsu@city.toyohashi.lg.jp

<https://toyohashi-bihaku.jp/>



neoコストリカ ミュージアムカフェ
特別コラボ「銅鐸クッキー」!

- JR・名鉄「豊橋」駅から豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」下車、北へ約300m(徒歩5分程度)
- ※「豊橋」駅から約1.6km(徒歩30分程度)
- 豊川ICから国道151号線・国道1号線経由にて車で30分
- 浜松西ICから県道65号線・国道1号線経由にて車で45分

表紙・①~④ Image:TNM Image Archives
⑤ 奈良国立博物館

